

# 日本経済新聞

## 不祥事続いた東大病院 現場のがん専門医が思うことは



東京大学の卒業式が3月25日、安田講堂で行われました。その前々週に、私の患者でもある恩師の養老孟司先生（解剖学者）と友人の橋爪淳さん（俳優）を招いて「大人のためのがんセミナー」を開催し、数百人の来場者で大盛況となったのと同じ会場です。

「がんは相当に『コントロール可能』な病気」だと訴えた我々のセミナーとは打って変わって、安田講堂の壇上で東大の藤井輝夫総長は2025年から相次いだ東大病院での不祥事に言及しました。「本学に対する信頼は、昨年来報道されている不祥事によって大きく損なわれた」と述べ、「総長として、未然に防げなかった事態を重く受け止め、改めておわびする」と陳謝しました。

東大病院では25年11月に整形外科の准教授が、26年1月には皮膚科の教授が、それぞれ逮捕、その後起訴されるという前代未聞の汚職事件が続きました。整形外科の准教授は医療機器開発企業から賄賂を受け取った容疑でした。

皮膚科の元教授は共同研究で便宜を図った見返りに、高級クラブなどで約180万円相当の接待を受けたとされます。私の弟とは東大医学部時代の同級で、学生時代はおとなしいタイプだったと聞きました。

一連の事件の影響は甚大です。東大は10兆円規模の大学ファンドによる支援対象となる国際卓越研究大学への認定を申請していますが、ガバナンス（統治）の欠如から「審査継続」とされています。赤字が続く大学病院に対する財政補助の補正予算についても、申請した78大学で唯一対象外なのが東大病院です。

私は36年間、東大病院で勤務しました。遠い昔には飲食店での接待もありましたが、コンプライアンス重視となった昨今ではにわかに信じられない事件で、言葉を失います。緊張感を欠いた風土や体制を今のまま改めるのは簡単ではありません。近く、東大病院は医学部付属から、東大本部直轄となる予定です。

今回の不祥事にはおわびの言葉もありません。改善すべき点は大いにあります。他方、私が研修医となった41年前と比べて、治療面や患者対応など格段に成長したといえる側面も今の東大病院には間違いなくあります。このことは「病院（特に東大病院）嫌い」だと公言してきた養老先生も認めてくれています。

私の専門である放射線治療もしかり。日本男性の9人に1人が罹患（りかん）する前立腺がんの場合は、5回の通院で手術と同じ効果が得られます。近々、1回の通院で完結する「単回照射」の実施も始めます。

病院の信頼回復に向け、臨床現場の専門医として、安全で質の高い、効率的な治療の実践と進化を続けます。

2026年4月15日